

# おおてみち

第70号

平成22年(2010年)1月15日  
滋賀県立安土城考古博物館

第39回企画展

## 湖西の風土と遺宝

—高島郡を中心に—



平成二十二年一月三〇日(土)～四月四日(日)

(月曜休館、ただし3/22(月祝)は開館、翌3/23(火)休館)

# 湖西の風土と遺宝

— 高島郡を中心に —

滋賀県内ではほぼ市町村の合併が一段落しました。そこで当館では、平成の市町村合併というこの時期に当たり、改めて各旧郡の歴史と文化を紹介する新シリーズを企画、平成十九年冬に開催した第一回展に引き続き、第二弾として開催するのが「湖西の風土と遺宝—高島郡を中心に—」展です。

この地域は、平安時代以来、比叡山のお膝元として天台宗が大きな勢力を持ち、また、琵琶湖を見下ろす比良山系のもとで山岳信仰が展開するなど、独特の宗教文化が栄えました。このような湖西地域の文化的様相を明らかにするために、本展では「仏像彫刻—古代・中世の造仏—」、「神像・本地仏・狛犬・懸仏—神仏習合のかたち—」、「宗教絵画の諸相」の三部構成で四六件(約二二〇点)の優れた美術工芸品を取り上げます。当地を代表する各種指定文化財(重文三件、県指定文化財二件、市指定文化財一六件)のほか、多彩な初公開資料や新資料を一堂に展観いたします。どうぞご期待下さい。

## 主な展示資料(※会期中に展示替をします)

- ◎重文、△県指定文化財、□市指定文化財
- 銅造誕生釈迦仏立像 (個人)
- 木造釈迦・阿弥陀如来坐像 (最勝寺)
- △木造薬師如来坐像・両脇侍立像 (正伝寺)
- ◎木造薬師如来坐像 (長谷寺)



◎木造阿弥陀如来坐像 (洞照寺、表紙写真)

△木造馬頭観音立像 (徳円寺)

・木造不動明王坐像 (大善寺、挿図写真)

・木造毘沙門天立像 (大崎寺)

□木造男神・女神坐像 (邇々杵神社)

□木造神将形立像 (北比良天満宮)

□日吉神社懸仏群 (三〇面、日吉神社)

◎絹本着色千手観音二十八部衆像 (大清水)

・絹本着色地藏十王図 (二一幅、宝幢院)

□絹本着色聖徳太子絵伝 (四幅、中野区)

\*秘仏特別公開

三月二日(火)〜三月七日(日)

三十三年に一度だけ開帳の秘仏「長谷寺

木造十一面観音・難陀龍王・赤精童子像(南北朝時代)」を一週間特別公開します。

## 関連行事等

\*博物館講座「高島の仏像・神像」

日時 二月一四日(日)午後一時三〇分

講師 山下 立(当館学芸課主任)

会場 当館二階セミナールーム

\*ギャラリートーク

日時 三月二二日(祝)

午後一時三〇分

会場 企画展示室

## (財) 滋賀県文化財保護協会 調査整理課通信

### 埋蔵文化財整理調査報告会

## 「あの遺跡は今! パート10」 のご案内

現在整理調査中の遺跡の最新情報を、報告会と出土品の展示・紹介を交えてわかりやすくお伝えするこの催しも一〇回目をむかえます。今回は「祈りと願いの考古学」をテーマに行います。当日は様々な出土品を間近に見ることができ、ほか、柿経（きへち）の最新出土資料の特別展示も行います。整理作業室の特別公開や整理作業体験、柿経作りなどのコーナーもあり、ご家族で楽しむこともできます。

日時 平成二二年二月二一日(日)

午前九時〜午後五時

※報告会は午後一時〜午後三時一五分

会場 当館セミナールーム・整理室

### 報告会内容

・水辺の祭祀(日野町番場遺跡)

・神社建物(東近江市金貝遺跡)

・柿経(高島市上御殿遺跡)

出土品展示 報告会で紹介する遺跡のほか、草

津市志那湖底遺跡・大津市関津遺跡・長浜市

塩津港遺跡や県内出土の柿経の特別展示もあ

ります。

参加方法 申し込み不要・無料

## 収蔵資料紹介

滋賀県指定文化財

### 炉壁

(粘土ブロックを直接  
炉壁に使用したもの)

滋賀県甲賀市鍛冶屋敷遺跡出土

奈良時代

鍛冶屋敷遺跡は甲賀市黄瀬、新名神高速道路信楽インター付近に所在します。甲賀寺推定地の史跡紫香楽宮跡内裏野地区から北東方向に約四五〇mの位置にあり、江戸時代から鑄造に関する遺跡であることが知られていました。新名神高速道路建設に伴って、滋賀県教育委員会・財団法人滋賀県文化財保護協会が二〇〇二年八月から二〇〇四年三月に約六千㎡を対象に発掘調査を実施しました。発掘調査によって、紫香楽宮期の頃の鑄造工房の姿が明らかとなり、二〇〇六年三月には発掘調査報告書が刊行されています(滋賀県教育委員会『鍛冶屋敷遺跡』)。

鍛冶屋敷遺跡から出土した遺物の一部は二〇〇七年に滋賀県指定文化財となり、当館が保管管理を行っています。今回はその中から、煉瓦状に焼成した粘土ブロックを、直接炉壁に使用したことを示す資料をご紹介します。

この資料は、本来は長さ二五cm、幅一七cm、厚さ一〇cm程の粗殻が混和された直方体の粘土ブロックで、煉瓦状に焼成した後、積み上げ溶解炉

の炉壁の構築剤として使用したものです。炉壁の内面側は、作業中の高熱により暗緑色にガラス化し、一部溶解しています。

古代日本においては、生粘土を直方体に成形し、積み上げることにより溶解炉や製鉄炉の炉壁を構築する例があります。しかし、本資料のように、煉瓦状に焼成したものを積み上げることにより、溶解炉の炉壁を構築した報告例はありません。中国大陸では銅や鉄の生産に伴う炉の炉壁に、煉瓦状に焼成したものを積み上げた事例があります。したがって、鍛冶屋敷遺跡の溶解炉には、中国大陸での先進的な炉の構築方法が用いられたと考えられます。紫香楽での大仏造りが本格的に進められようとしていたことを示す重要な資料と言えます。(大道和人)



## 滋賀県教育委員会文化財保護課 城郭通信



### まるごと佐和山城

〜三成に過ぎたるもの

さる十二月五日(土)、「まるごと佐和山城」と題する催しを実施しました。これは、佐和山城の東にある中山道鳥居本宿と三成の居城跡である佐和山城跡、そして佐和山西麓に点在する井伊家ゆかりの寺社を結ぶ歴史イベントで、近江鉄道、地元鳥居本お宝発見隊等と協働で取り組んだものです。今回はその中で、城跡ウォーク「風雲佐和山城」についてご紹介します。

まず鳥居本宿本陣跡に集合の後、鳥居本宿を自由散策する中で、赤玉神教丸でおなじみの有川家住宅を見学してもらいました。その後、佐和山城に登り、西側の龍潭寺に下った後、清涼寺井伊家墓所を見学しました。終了後、鳥居本宿場クイズの正解発表と、今回使用した幟旗の争奪じゃんけん大会を実施しました。当日は雨にもかかわらず、一二三名の参加

者がありました。また東京や静岡など遠方からの参加者もあり、佐和山城への関心の高さがうかがえました。今後もうこうした催しは続けていきたいと考えています。大勢の皆様のご参加をお待ちしております。

# 博物館の主な催し

平成22年 1月	第39回企画展「湖西の風土と遺宝」高島郡を中心に」 平成22年1月30日(土)～4月4日(日)	テーマ展「近江の城 小川城展」 平成22年1月9日(土)～4月9日(金)	～17日(日)	特別陳列「よみがえった文化財 —琵琶湖文化館の収蔵品と修復の世界—」
			5日(土)～17日(日)	特別公開「平成21年度滋賀県新指定文化財」
31日(日)			博物館講座「信長文書を読む」13時30分～15時(先着140名) 講師:高木 叙子(当館学芸課主任) 参加費:無料 場所:当館2階セミナールーム	
2月			14日(日)	博物館講座「高島の仙像・神像」13時30分～15時(先着140名) 講師:山下 立(当館学芸課主任) 参加費:無料 場所:当館2階セミナールーム
			21日(日)	埋蔵文化財整理調査成果報告会「祈りと願いの考古学」 「あの遺跡は今!パート10」13時～15時15分 資料展示:9時～17時 参加費:無料※別途入館料は必要 場所:当館2階セミナールーム・調査整理課作業室
3月			14日(日)	史跡案内「高島の史跡を歩く」 定員50名(往復ハガキで3月5日までに申込が必要) 時間:13時～16時(予定) 集合場所:未定 参加費:保険代・資料代等(交通費、入館観覧料は自己負担)
			22日(祝・月)	第39回企画展「湖西の風土と遺宝—高島郡を中心に—」13時30分～ ギャラリートーク 参加費:無料(別途入館料が必要) 会場:当館企画展示室
4月			4月24日(土) ～6月13日(日)	平成22年度春季特別展 「古墳時代の王権と祭祀—導水施設と埴輪群像—」
			29日(祝・木)	春のお茶会 (当日受付、約100名) 時間:午前10時30分～午後3時 場所:当館エントランスホール お茶・お菓子代:300円

## おかげさまで入館者一〇〇万人達成!

平成四年十一月一日に当博物館が開館してから、十七年目の平成二十二年十一月二八日、延べ入館者数が、一〇〇万人に達しました。

一〇〇万人目の入館者は、近江八幡市在住の久保田直秀様ご一家でした。「信長ゆかりの地で、紅葉がとても美しかったので来ました。一〇〇万人目の入館者ということで、ただただ、びっくりしています。テレビでは、よくこういった風景を見ますが、まさか自分になるとは思いませんでした。展示を見て、知らなかったことも多く、新たな発見ができました。また、機会を見つけて訪れたいと思っています。」とのコメントをいただきました。

開館以来、入館者は平成六年度に最高の八万四千人を超えたのをピークに、その後は例外もありますが五万人前後で推移してきました。今年度は戦国ブームや、安土城の築城を題材とした映画「火天の城」の影響もあってか、九月・十月は当館へ、連日多くの皆様にお越し頂き、特に九月は昨年度と比較しますと、入館者は3・4倍の一、七六六人にもなりました。今後も引き続き皆さま方に学び・楽しみ親しんでいただける



博物館を目指してまいりたいと考えております。皆さま方のご来館を心からお待ちしております。上げております。

おおてみち 第70号

平成22年(2010年)1月15日発行

編集・発行 滋賀県立安土城考古博物館

〒521-1311 滋賀県蒲生郡安土町下豊浦6678 TEL 0748-46-2424  
E-mail:gakugei@azuchi-museum.or.jp URL http://www.azuchi-museum.or.jp